

# 高崎ロータリークラブの今

2017年8月号「クラブを訪ねて」で会員数が64人から115人へと1年間で劇的な増強を果たした高崎RCを紹介しました。その後、高崎RCはどのような変化を遂げているのでしょうか。新たな課題は？現在の取り組みは？高崎RCに聞いてみました。

Q 会員が増えて、クラブにどんな変化がありましたか？

奉仕活動に大きな変化はありませんが、日常の資金繰りが潤沢になったため、多方面から資金提供を求められる機会が増えています。一度、見直しが必要だと考えています。また、会員の増加に伴い、趣味も多様になったので、同好会活動（ゴルフ、釣り、野球、そば打ち、ボウリング、山岳部など）が盛んになりました。

Q 会員が増えて良かったと思うのはどんな時ですか？

さまざまな個性の人が増えることで、マンネリ化や停滞感が生じていたクラブに、躍動感が感じられるようになりました。女性会員数の増加も大きいです。常に華やかで環境であるのはうれしいことです。また業種が多様になったことで情報交換が図られ、各人の仕事面でも円滑な関係が築けるようになってきました。

また、資金的な余裕が生じて、金銭面でクラブの運営がしやすくなっています。実際のところ、ニコニコボックスに年間300万円超の金額が集まります。

Q 逆に、会員が増えて困ったことはありますか？

若手会員（年齢ではなく、入会年数が浅い会員）の比率が増えることにより、クラブのオールド・スタンダード（旧来の考え方）に変化が生じてきました。要は、従来の方針を過去のものとして、新たなクラブづくりを目

指さなければならなくなったのです。

また、事務局の仕事が大変煩雑になり、2人の事務局員が残業せざるを得ない日が増えました。そこで、新たな事務処理専用ソフトを開発し導入したところ、会員の出席管理、寄付金管理などがだいぶ円滑になりました。会員にとっても、例会出欠の連絡が簡単にでき、他の会員の出欠も確認できるようになります。ソフトが整ったら、全国のクラブに紹介しようと思っています。

Q 会員勧誘の際に気をつけていることはありますか？

クラブのための単なる数合わせとして入会してもらうのではなく、新会員のこれからの人生にとってロータリーが大変有益であると説明しています。入会後の出席義務、会費、寄付金などに関しては、入会後の食い違いがないようにしています。

Q 新会員への特別プログラムはありますか？

年に数回、ロータリー情報委員会を開催して、入会3年目までの会員を対象にロータリーの啓蒙・教育を行っています。その際に講師としてパストガバナーやパスト会長など、経験豊富な講師を迎えることもあり、ロータリーのイロハから、その先の人生の目的とロータリー精神との一致論といったことまで話してもらうこともあります。



地区大会を盛り上げようと、キャラバンを結成



大漁？を喜ぶ釣り同好会（上）地元の祭りや薬物乱用防止を訴える（左）



## 高崎RC基本データ

- 創立 1954年
- 例会 毎週月曜日 12:10～
- 入会金 10万円 年会費 24万円
- 会員数 139人 (女性会員 15人) 2019年7月1日現在
- 転勤の可能性のある会員 13人
- 平均年齢 57歳 最高年齢 83歳 最少年齢 36歳 2019年6月25日現在
- 高崎市内のクラブ数 6クラブ 高崎市の人口 37万3,389人 2019年5月末現在

Q 急に若い会員が増えた時、ベテラン会員の反応は？

最初の頃は、ベテラン会員に戸惑いがあったかもしれませんが、しかし、クラブにとって会員増強が重要であることは誰もが共感、理解していたことなので、増強を果たした結果、多くのベテラン会員から評価されています。現在では、夜間例会で先輩たちが若手に囲まれてうれしそうにしている姿を見ると、増強を行って良かった、と感慨を覚えます。まず考えるより、行動することが大切だと実感しました。

Q 例会がマンネリにならないための工夫はしていますか？ また、いつも決まったメンバーで固まらないような工夫はしていますか？

いつもと趣を変え、高崎経済大学の学生が運営している喫茶店（cafe あすなる）で例会を開催した時は、いつも以上に会話が弾みました。また、レストランや結婚式場などの経営者が増えたので、その会員らの協力を得て、夜間例会などでは会場や趣向を変えて楽しめるようになりました。例会の席については、くじ引きを取り入れるなどしていましたが、なかなか改革は難しいところです。ロータリーは自分が楽しむことが先決だ、とする傾向がまだ見受けられます。利他の考えに気づいてほしい場面もあります。

Q 現在、将来に向けてどんな取り組みをしていますか？

ロータリー戦略計画委員会を定期的で開催し、過去から学びつつ、今後のクラブの在り方についての具体的な

取り組みを検討しています。また、そのメンバーは直前年度、現年度、次年度の3年度のクラブ会長と幹事にするので、ロータリーの単年度主義を超えて中長期的な議論がなされるようになりました。

### 「伝説の会長」田中久夫元会長からひと言

私がクラブの会長を務めてから5年が経過した。その間に64人のクラブは139人になった。最近では転勤などのやむを得ない理由以外による退会者もない。例会は、皆がクラブを楽しんでいる雰囲気といっぱいだ。その理由を考えるが、特に思い当たることはない。その年度の会長、幹事が中心となって、クラブを盛り立てることに気を配る、若手をクラブ役員に登用し、自由にロータリー活動を任せる、奉仕活動では皆が同じ目標を持ち、それを達成するために努力し、その成果を一緒に喜ぶ、といった「全員野球」のような気持ちが大切だ。

会員にはさまざまなタイプがいる。その多様性を理解し、それぞれが活躍できる場所を提供し、自分の居場所、役割を満喫してくれるように工夫することがクラブ指導者の務めだ。

最近、全国各地から会員増強の秘訣についての講演を頼まれる。つたない話だが、その話を聞いて多くの地区で会員増強が果たされることを望んでいる。  
(2017-18年度 第2840地区ガバナー)

### 高崎RCの会員数の推移

(各年度とも7月1日現在)

